

令和 8 年度 宇都宮市地産地消推進会議 総会 次第

日時：令和 8 年 4 月 2 7 日（月）

1 3 時 3 0 分～

場所：宇都宮市役所 1 4 階 1 4 D 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 議 題

(1) 議案第 1 号 令和 7 年度 事業報告及び収支決算について

(2) 議案第 2 号 令和 8 年度 事業計画（案）及び収支予算（案）について

(3) 議案第 3 号 地域循環型食料システム構築事業に合わせた 3 協議会の在り方検討について

5 そ の 他

6 閉 会

令和8年度 宇都宮市地産地消推進会議 委員名簿

(敬称略・区分ごと五十音順)

役職	No.	氏 名	職 業 等	備考
第1号委員 (市議会議員)		1 平松 明夫	市議会議員	新任
		2 山崎 昌子	市議会議員	新任
第2号委員 (学識経験者)	会長	3 西山 未真	宇都宮大学 農学部教授	
		4 渡辺 憲司	栃木県河内農業振興事務所 所長	新任
第3号委員 (関係団体の代表)		5 安藤 公一	宇都宮青果商業協同組合 専務理事	
		6 薄井 英和	株式会社東武宇都宮百貨店 食品部担当部長	
		7 小野 繁明	株式会社ファーマーズ・フォレスト 営業開発・商品企画部 部長	
	監事	8 金原 恵美	株式会社 Cooking&Glow 代表取締役	
		9 佐藤 要	宇都宮市PTA連合会 副会長	
		10 柴田 敦子	宇都宮市農村生活研究グループ協議会 会長	新任
		11 五月女 俊彦	宇都宮市園芸振興連絡協議会 (上河内園芸振興協議会会長)	新任
		12 田野邊 大介	東一宇都宮青果株式会社 代表取締役社長	
		13 徳原 凱	一般社団法人 宇都宮青年会議所 ひと創りグループ担当常任理事	新任
		14 野澤 克子	宇都宮市消費者友の会 会長	
	監事	15 野澤 武	株式会社オータニ 商品部 青果バイヤー	新任
		16 増渕 祥子	宇都宮市食生活改善推進員協議会 書記	
	副会長	17 見形 繫	宇都宮農業協同組合 代表理事常務	
		18 渡邊 崇	栃木県飲食業生活衛生同業組合 事務局長	

宇都宮市地産地消推進会議 事務局名簿

役 職	氏 名	所 属
事務局	岡 田 剛 博	経済部 次長 (農政担当)
	鈴 木 嘉 紀	農林生産流通課 課長
	鈴 木 宏 輔	農林生産流通課 課長補佐
	河 野 勝	農林生産流通課 農産物消費拡大G 総括
	大 山 三 里	農林生産流通課 農産物消費拡大G 主任主事
	川 野 景 介	農林生産流通課 農産物消費拡大G 主任主事
	沼 尾 優 奈	農林生産流通課 農産物消費拡大G 主事
	後 藤 亜希子	農林生産流通課 農産物消費拡大G 主事
	相 場 宗	宇都宮農業協同組合 営農部 総合販売課 課長

資料 1

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

令和 7 年度事業報告及び収支決算について、
運営要領規約第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に基づき、
次のとおり議決を求めます。

1 実施内容

①市民全体で農業を支える意識の醸成

- ア シンボルマーク等の作成
 - イ うつのみや地産地消マルシェ
 - ウ 地産地消強化月間における普及啓発
 - エ SNS等を活用した情報発信
- など

②手に入れやすい環境の整備

- ア 推進店と協力したキャンペーン
 - イ 地産地消アプリの導入
 - ウ 推進店の新規認定（拡充）
 - エ 生産者と実需者等のマッチング
- など

③安全・安心の見える化

- ア 生産履歴記帳の確認
- イ 農産物の安全に関する研修会
- ウ 残留農薬自主検査等への補助

④グリーン農業への理解促進

- ア うつのみやグリーンマルシェ
- イ グリーン農業推進協議会への参画

① 市民全体で農業を支える意識の醸成

ア シンボルマーク等の作成【新規】

- ・地産地消運動の推進に向け、20～40代女性をメインターゲットとしたシンボルマークとキャッチフレーズを新たに作成



おいしっ、
たのしっ、
うつのみや。

合言葉は

「おいしっ、たのしっ、うつのみや。」

本市が目指すのは、地産地消を楽しむという新しい暮らし方です。
地元の農産物を選び、味わい、分かち合うことで、
暮らしは豊かに、地域は元気になります。
「おいしっ、たのしっ、うつのみや。」の合言葉は
「農業王国」宇都宮が描く新しい姿です。
恵みをみんなでつなぎ、楽しみ、未来へ引き継いでいきましょう。

この印は、
命とおいしさのサイクルです。



議案第1号 令和7年度事業報告及び収支決算について

① 市民全体で農業を支える意識の醸成

イ うつのみや地産地消マルシェ

- ・初めて 民間の商業施設 で開催
- ・生産者や地産地消推進店等（計14団体）による
宇都宮産農産物等の販売 及び 地産地消のPR 等を実施
- ・新たに作成したシンボルマーク等を活用



▲マルシェチラシ

内容

日時：令和8年3月1日（日）

場所：福田屋インターパークショッピングビレッジ・センターコート



▲当日の様子

《 うつのみや地産地消マルシェの来場者アンケート 》

- ・ アンケート回答の63.2%が若年層（40代以下）
- ・ 来場のきっかけが「通りがかり」 : 54.9%
- ・ 「デザインにより魅力が伝わった」 : 95.6%
- ・ 「地産地消に興味湧いた」 : 94.2%
- ・ 宇都宮産農産物を「今後も購入したい・購入してみたい」 : 96.6%

- 親しみやすいシンボルマークに作成により、若年層への効果的なアプローチにつながった。
- また、集客の多い商業施設で開催したことで、当日「通りがかりで来場した」と回答した方が過半数と最も多く、より広く地産地消の取組をPRすることができた。

議案第1号 令和7年度事業報告及び収支決算について

① 市民全体で農業を支える意識の醸成

ウ 地産地消強化月間における普及啓発

- ・ 広報うつのみやの特集ページへの掲載
- ・ 市役所本庁舎1階ショーケースでのPR展示
- ・ 南図書館におけるPR展示



▲広報うつのみや11月号

広報紙の特集掲載や公共施設でのPR展示など、
多様な媒体を活用した情報発信を行い、
市民の認知度拡大・関心喚起を図ることができた。



▲南図書館の展示

議案第1号 令和7年度事業報告及び収支決算について

① 市民全体で農業を支える意識の醸成

エ SNS等を活用した情報発信

- ・ アグリファンクラブ会員向けメールマガジン
- ・ 農業王国うつのみやHP, Instagram など



SNS等を活用し、イベントやキャンペーンに合わせて地産地消推進店の情報発信を行うことで、店舗の**認知向上**、地産地消の推進につなげた。

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

① 市民全体で農業を支える意識の醸成

オ その他

イベント等における宇都宮産農産物の提供及び P R を実施

- 5 月 3 1 日 ブレックス感謝祭（宇都宮産米食べ比べセット提供）
- 9 月 2 8 日 もったいないフェア（宇都宮産米食べ比べセット提供）
- 1 1 月 8 日 市場開設 5 0 周年記念うんめ〜べ朝市感謝祭
（キューブ米の提供）
- 1 1 月 1 0 日 農林業祭プレイベント
（推進店生花店で使えるクーポン券の配付）

① 市民全体で農業を支える意識の醸成【総括】

- ・ 親しみやすいシンボルマークを活用したイベントの開催やSNSを活用した効果的な情報発信により，若年層も含めた広く市民に地産地消の取組の理解促進を図ることができた。
- ・ 引き続き，多くの市民が集まるイベントやキャンペーンなど，他事業との連携を図りながら，更なる地産地消の推進に努めていく必要がある。

議案第1号 令和7年度事業報告及び収支決算について

②手に入れやすい環境の整備

ア 推進店と協力したキャンペーン

「採れたて うつのみや まるかじりキャンペーン」の実施

【期 間】 11月1日～12月26日

【対 象】 113店舗（小売店59店舗，飲食店54店舗）

【応募数】 7,374通（紙：4,494 Googleform：2,880）

- ・参加割合の低かった10代～40代層への訴求を強化するため、**応募方法をデジタル化**
- ・従来のシール応募方式から，店舗に掲示されたキーワードを入力し応募する方法への見直し
- ・参加店舗情報をまとめた推進店パスポートの作成により，**推進店のPRを強化**



▲monnmiya 11月号



▲推進店パスポート

- 若年層の応募者の割合は、前年度比約1.5倍となるなど、若年層への訴求強化については、応募方法のデジタル化の効果が見られた。
- また、キーワード方式への変更は、参加店舗の約82%が負担を感じなかったと回答するなど、店舗の負担軽減につながった。
- 消費者と推進店の双方が参加しやすく、より消費拡大につながる効果的なキャンペーン運営手法の検討が必要

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

②手に入れやすい環境の整備

イ 地産地消アプリの導入【新規】

- ・ 「ロカスタ」 の本格導入（令和 7 年 10 月 1 日）

【ダウンロード数】 844 人（令和 8 年 3 月 31 日時点）

- 【主な機能】
- ・ 推進店の店舗情報（住所、営業時間等）の閲覧
 - ・ 地図上での位置確認、ルート検索
 - ・ 各店舗のイベント情報の掲載
 - ・ スタンプラリーの実施

○市民が、スマートフォン等から、いつでもどこでも簡単に地産地消推進店の情報を取得できる環境を整備できた。

○一方で、アクティブユーザー数は低水準であり、日常的に活用してもらえるような利用促進策の検討が必要



「ロカスタ」を使って
宇都宮の美味しい情報を
手軽にゲットしよう！

宇都宮産産物を販売している直売所や
地産地消のお店を調べられるアプリです。
📱アプリをダウンロード 📍「宇都宮市」を選択

「ロカスタ」でできること

- Point 1
直売所や飲食店の情報
が手軽に確認できる！
地図上で店舗の位置を確認し、
住所や営業時間などの情報を
確認できます。
- Point 2
直売所や飲食店を
すぐに訪問できる！
現在地から目的地までの
ルート案内が可能です。
お気に入りの店舗を
登録して、お出かけの
参考にしましょう！
- Point 3
イベント情報が
すぐ分かる！
マルシェなどの開催情報が
すぐ確認できます。また、
お気に入りのイベントを
登録してお知らせを
受け取ることができます。

▼アプリダウンロードはこちら
【WEB版はこちら】 【App Store】 【Google Play】

【問合せ先】 宇都宮市地産地消推進会議（宇都宮市農林生産流通課）
TEL: 028-632-2843（平日8:30～17:15）
メール: u2320@city.utsunomiya.lchigi.jp

▲ロカスタチラシ

②手に入れやすい環境の整備

ウ 推進店の新規認定（拡充）

- ・キャンペーン実施時や職員による勧誘等を通して、新たに7店舗が加入

新たに7店舗が加入したものの、閉店等により14店舗が辞退となったことで、推進店数は176店舗から169店舗に、前年から減少（7店舗減）しており、推進店のメリットを感じてもらえる取組の検討が必要

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

②手に入れやすい環境の整備

エ 生産者と実需者等のマッチング

(1) 実需者とのマッチング ⇒ 成立 7 件／商談 13 件

- ・生産者と実需者を職員が仲介

【主な実績】保育園，小売店，加工業者×多品目野菜生産者

(2) 学校給食のマッチング ⇒ 成立 2 件／商談 4 件

- ・学校給食関係者との意見交換
- ・学校周辺の生産者への呼びかけ

○職員が仲介するかたちで，生産者と実需者のマッチング支援を行い，
17 件の商談を実施，うち 7 件が成立するなど前年を上回る成果につながった。

○学校給食については，配送手段や納品時間等の条件面での課題があり，
マッチング成立は 2 件にとどまった。

②手に入れやすい環境の整備

オ その他

- ・生産者主体の P R イベントに対する費用の一部補助（R7実績：3 件）
- ・直売所の簡易改修等に対する費用の一部助成（R7実績：1 件）

生産者による地産地消の促進に向けた主体的な取組を支援することができた。

② 手に入れやすい環境の整備【総括】

- ・ 推進店と連携したキャンペーンやマッチング事業などにより、地産地消の取組を促進することができた。
- ・ 消費者が宇都宮産農産物を身近に感じてもらうためには、推進店の拡充が有効であり、推進店になることのメリットを創出する必要がある。

③安全・安心の見える化

ア 生産履歴記帳の確認

- ・ 県河内農業振興事務所と連携した直売所巡回（市内 2 3 か所）
- ・ 生産履歴の記帳の確認・指導

【実施期間】 1 回目： 4 月 2 2 日～2 6 日

2 回目： 1 0 月 2 7 日～1 1 月 1 1 日

○市内農産物直売所における適正な出荷体制の確保が図れた。

③安全・安心の見える化

イ 農産物の安全に関する研修会

- ・ 県河内農業振興事務所と連携し、生産者を対象とした研修会を開催

【講演内容】「農薬の適正使用と農産物の安全・安心について」

○市内生産者に対し、農薬の適正使用について、理解促進を図った

ウ 残留農薬自主検査等への補助

- ・ 直売所のイメージアップ事業として、直売所を運営する生産者へ補助金の利用を働きかけ

○直売所巡回の機会を捉え、生産者に対し、補助事業の周知とともに、自主検査の理解促進を図った。

③ 安全・安心の見える化【総括】

- ・ 県との連携により直売所を定期的に巡回し，適正な出荷体制の確保を図るとともに，研修会を実施するなど，農産物の安全性の見える化に取り組んだ。
- ・ 引き続き，消費者が安心して直売所を利用できるよう，生産者に対し，安全・安心につながる取組を促していく。

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

④グリーン農業への理解促進

ア うつのみやグリーンマルシェ

- ・ **食育フェア**（来場者30,000人）との同時開催
- ・ グリーン農業生産者やグリーン農産物を取り扱う店舗等（計 21 団体）による販売および P R 等を実施
- ・ 令和 6 年度作成 **「SMILE GREEN TABLE」** デザインを活用
- ・ イベント内容の充実や効果的なPRに向けて、事前に生産者との **意見交換会** を実施

内容

日 時：令和 7 年 1 0 月 1 9 日（日）

場 所：宮みらいライトヒル 2 階交流広場



▲マルシェチラシ



▲当日の様子

議案第1号 令和7年度事業報告及び収支決算について

《グリーンマルシェの来場者アンケート》（回答数310件）

- ・グリーン農業を知っていたか？ 「知らなかった」：45% 「言葉だけ」：41%
- ・グリーン農業に興味があったか？ 「興味があった」：45% 「少しわいた」：38%
- ・マルシェの満足度（来場者） 「とても満足」：18% 「満足」：65%

《グリーンマルシェの参加店舗の意見》

- ・マルシェの満足度 「良かった」「また参加したい」：15店舗／16店舗

- 来場者アンケートでは「グリーン農業に興味があった」と回答した割合は、83%であり、グリーン農業への興味関心の醸成につながった。
- 前年度のマルシェの経験や出店者の意見を参考にしながら、生産者と連携し、イベント内容の充実を図ったことで、来場者、参加店舗いずれも満足度の高いイベントを実施することができた。

④グリーン農業への理解促進

ウ グリーン農業推進協議会との連携

- ・ 栃木県やＪＡうつのみや等の関係機関とグリーン農業の推進に向けた意見交換を実施

関係機関のそれぞれが実施している取組について情報共有が図れた。

④ グリーン農業への理解促進【総括】

- ・参加者の多い食育フェアとの同時開催により、より多くの市民にマルシェを通したグリーン農産物の周知啓発を図ることができた。
- ・アンケートでは、「グリーン農業を知らなかった」または「言葉だけ知っていた」と回答した方が、86%であることから、引き続き、グリーン農業は環境保全に資する未来につながる重要な取組であり、こうしたグリーン農業がもたらす価値について、グリーン農業推進協議会や生産者と連携しながら、消費者の理解促進に努めていく。

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

(参考) 成果目標

- ・ 令和 5 年度総会において成果目標を設定
- ・ 期間は令和 1 5 年までには 1 0 0 % を目指し令和 1 0 年までの目標値を設定

成果目標	R7実績	成果目標を高めるための主な取組	計画との関連性
	R10目標		
① 宇都宮産農産物を積極的に購入する市民の割合 (市政世論調査結果)	79.8%	・ 推進店の拡大・充実 ・ 地場農産物マッチング事業 ・ 直売所イメージアップ事業 (改修) ・ アグリビジネス創出事業	「市民全体で農業を支える意識の醸成」 「手に入れやすい環境の整備」
	92.0% (R15:100%)		
② 出荷者すべてが生産履歴を記帳している直売所の割合	(参考値) R6実績100%	・ 巡回指導 ・ 安全安心講習会の開催 ・ 直売所イメージアップ事業 (残留農薬検査への支援)	「安全・安心の見える化」
	100.0%		
③ 環境に配慮した農産物を選択したいと思う市民の割合 (市政世論調査結果)	86.3%	・ グリーンマルシェでの P R ・ 市内グリーン農業の情報発信	「グリーン農業への理解促進」
	93.5% (R15:100%)		

2 収支決算

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

令和 7 年度収支決算

1	令和 7 年度収入決算額	10,628,572円
2	令和 7 年度支出決算額	10,275,843円
	差引残高	352,729円

※ 差引残高352,729円については、令和 8 年度に繰越いたします。

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

(1)収入の部

(単位：円)

科 目		予算額	決算額	比較増減	備 考
款	項 目				
1 交付金		7,711,000	7,711,000	0	
	(1) 交付金	7,711,000	7,711,000	0	宇都宮市
2 助成金		2,569,000	2,569,000	0	
	(1) 団体助成金	2,569,000	2,569,000	0	宇都宮農業協同組合
3 繰越金		334,546	334,546	0	
	(1) 繰越金	334,546	334,546	0	前年度繰越金
4 雑収入		454	14,026	13,572	
	(1) 雑収入	454	14,026	13,572	利息
合 計		10,615,000	10,628,572	13,572	

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

(2)支出の部

(単位：円)

科 目		予算額	決算額	比較増減	備 考
款	項 目				
1 事務費		150,000	50,500	△99,500	
	(1) 会議費	4,000	2,340	△1,660	会議開催に係る経費
	(2) 事務費	146,000	48,160	△97,840	郵送代, 振込手数料に係る経費
2 事業推進費		10,465,000	10,225,343	△239,657	
	(1) 普及啓発活動費 【市民全体で農業を支える意識の醸成】	225,000	603,240	378,240	消費者向け啓発用物品に係る経費
	(2) 地場農産物利用促進費 【手に入れやすい環境の整備】	10,195,000	9,622,103	△572,897	地産地消キャンペーン業務委託, 地産地消アプリ「ロカスタ」の利用等に係る経費
	(3) 安全・安心な農産物供給事業費【安全・安心の見える化】	45,000	0	△45,000	地場農産物利用促進に向けた調査研究費
合 計		10,615,000	10,275,843	△339,157	

議案第 1 号 令和 7 年度事業報告及び収支決算について

監査報告

令和 7 年度宇都宮市地産地消推進会議の事業執行及び会計について、関係書類及び帳簿等を監査した結果、事業の執行状況及び会計等すべて適正であったことを認めます。

令和 8 年 4 月 2 7 日

監	事	金原	恵美
監	事	野澤	武

※原本は事務局にて保管しています。

(参考) 宇都宮市地産地消推進会議運営要領 (抜粋)



(会議)

- 第5条 会議に付議する事項は次のとおりとする。
- (1) 推進会議の事業計画並びに事業報告に関すること
 - (2) 推進会議の予算並びに決算に関すること
 - (3) その他、推進会議の運営に係る事項に関すること

資料 2

議案第 2 号 令和 8 年度事業計画及び収支予算について

令和 8 年度事業計画及び収支予算について、
運営要領規約第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に基づき、
次のとおり議決を求めます。

議案第2号 令和8年度事業計画及び収支予算について



宇都宮市
Utsunomiya City

1 事業方針（取組強化のポイント）

(1) 市民全体で農業を支える意識の醸成

- ・ イベントやSNS等による若年層及び新規層へのアプローチを継続するとともに、多様な主体と連携した地産地消の取組を推進し、市民全体で農業を支える意識の更なる醸成を図る。

(2) 手に入れやすい環境の整備

- ・ 地産地消の取組が実際の消費拡大につながるよう、キャンペーン手法の見直しを図る。

(3) 安全・安心の見える化

- ・ 生産履歴管理の徹底や安全確保に向けた啓発を継続するとともに、自主的な安全対策の取組を促進する。

(4) グリーン農業への理解促進

- ・ 関係機関との連携を強化するとともに、市民及び生産者双方への働きかけを通じて、グリーン農業の理解促進及び持続的な取組の推進を図る。



2 実施内容

(1) 市民全体で農業を支える意識の醸成

ア 「うつのみや地産地消マルシェ」の開催【強化】

- ・ 集客の多いイベントとの共催など，他事業との連携（横展開）による，効果的かつ持続可能な開催手法を検討する。

イ 注目度の高いイベントや販売会への出展

- ・ 注目度の高いPR機会等を活用しつつ，生産者主体の販売会を補助金等により支援する仕組みへ転換を図る。

ウ 主体的な行動を促進する地産地消ブランディングの検討

- ・ シンボルマーク等を効果的に活用しながら，普及拡大に向けた具体的実施方策を検討する。

議案第2号 令和8年度事業計画及び収支予算について



宇都宮市
Utsunomiya City

エ 地産地消強化月間（11月）における市庁舎内ディスプレイや広報紙，ラジオなど様々な媒体での普及啓発

- ・ イベントとの連動等，効果的な実施時期を検討する。

オ 生産者・地産地消推進店のPR（SNS等への情報発信）

- ・ 日常的な情報発信を強化する。

カ 「農業王国うつのみや」HP，SNS，アグリファンクラブ会員メールマガジン等を活用した情報発信

- ・ イベントの機会等を活用し，情報発信を強化する。



(2) 手に入れやすい環境の整備

ア 推進店と連携したキャンペーンの実施【強化】

- ・ 本市が物価高騰対策として実施する「宮の家計応援給付金※」給付事業との連動企画である「クーポンキャンペーン」と併せて実施し、実際の消費喚起につなげる仕組みへの改善をするとともに、他事業との連携による効果的なキャンペーンを実施する。

※宮の家計応援給付金…食料品の物価高騰による家計負担の軽減や地域経済を下支えするため、すべての市民に対し、1人当たり5,000円の現金給付を実施

イ 地産地消アプリ「ロカスタ」

- ・ マルシェ等の機会を活用し配信回数を増加させ、アクティブユーザーの増加を図る。



ウ 地産地消推進店の新規認定

- ・ 推進店の更なる拡充に向け、クーポンキャンペーン（給付金関連事業）の参加店舗募集と連動し、本キャンペーンの案内・参加をきっかけとした、効果的なPR活動を実施する。

エ 学校給食とのマッチング

- ・ 学校単位での具体的ニーズ把握を進める。

オ 市場ニーズを踏まえた生産者と実需者のマッチング

- ・ 実需者及び生産者双方のニーズ把握を強化する。

カ 宇都宮産農産物PRのためのイベント費用の一部補助

- ・ 生産者の実情に応じた支援を継続する。
- ・ 制度周知を強化し、活用拡大を図る。

議案第 2 号 令和 8 年度事業計画及び収支予算について



宇都宮市
Utsunomiya City

キ 直売所イメージアップ事業

- ・ 直売所巡回等による制度周知を強化する。
- ・ 申請しやすい環境整備及び伴走型支援を実施し，制度活用を促進する。



(3) 安全・安心の見える化

ア 生産履歴記帳の確認【強化】

- ・ 未記帳の直売所に対する重点的な呼びかけを実施する。
- ・ 生産履歴用紙の配付等により記帳徹底を図る。

イ 農産物の安全に関する研修会

- ・ 関係機関と連携し、研修会の継続実施を通じて安全安心な農産物づくりの啓発を行う。

ウ 残留農薬自主検査等への補助

- ・ 直売所巡回等による制度周知・申請しやすい環境整備及び伴走型支援を実施し、制度活用を促進する。



(4) **グリーン農業への理解促進**

ア グリーン農業推進協議会における意見交換

- ・ グリーン農業に関する関係機関との情報共有を図る。

イ 市民のグリーン農業に対する理解促進【強化】

- ・ 開催コンセプト及びデザインを継続活用する。
- ・ 「食育フェア」との同時開催など、効果的かつ効率的なマルシェを実施する。

ウ 生産者ニーズの情報収集及び需要創出に向けた調査研究

- ・ 意見交換会及び個別ヒアリングを継続実施する。

議案第 2 号 令和 8 年度事業計画及び収支予算について



宇都宮市
Utsunomiya City

3 主なスケジュール（予定）

時期	内容
4 月	・ 直売所巡回（前期）
5 月 1 5 日～ 9 月 3 0 日	・ 推進店等を活用したキャンペーンの実施
1 0 月	・ うつのみやグリーンマルシェの開催 ・ 直売所巡回（後期）
1 1 月	・ 地産地消強化月間における啓発活動
2 月	・ うつのみや地産地消マルシェの開催
随時	・ 地産地消アプリ「ロカスタ」の配信 ・ 推進店の増加・充実に向けた新規店舗営業活動 ・ 地場農産物マッチング事業 ・ 農業王国うつのみやHPやSNS等での情報発信

2 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目		令和 8 年度 予算額	令和 7 年度 予算額	比較増減	備 考
款	項 目				
1 交付金		8,357,000	7,711,000	646,000	
	(1)交付金	8,357,000	7,711,000	646,000	宇都宮市
2 助成金		2,785,000	2,569,000	216,000	
	(1)団体助成金	2,785,000	2,569,000	216,000	宇都宮農業協同組合
3 繰越金		352,729	334,546	18,183	
	(1)繰越金	352,729	334,546	18,183	前年度繰越金
4 雑収入		271	454	△183	
	(1)雑収入	271	454	△183	利息
合 計		11,495,000	10,615,000	880,000	

2 収支予算

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目		令和 8 年度 予算額	令和 7 年度 予算額	比較増減	備 考
款	項 目				
1 事務費		180,000	150,000	30,000	
	(1)会議費	5,000	4,000	1,000	会議開催に係る経費
	(2)事務費	175,000	146,000	29,000	郵送代, 振込手数料に係る経費
2 事業推進 費		11,315,000	10,465,000	850,000	
	(1)普及啓発活動費【市 民全体で農業を支える意 識の醸成】	600,000	225,000	375,000	地産地消コンセプト啓発用物品作成 等に係る経費
	(2)地場農産物利用促進 費【手に入れやすい環境 の整備】 【グリーン農業 への理解促進】	10,715,000	10,195,000	520,000	地産地消キャンペーン業務委託, 地産地消アプリ「ロカスタ」の利用 及び地産地消マルシェ・グリーンマ ルシェ出展等に係る経費
	(3)安全・安心な農産物 供給事業費【安全・安心 の見える化】	0	45,000	△45,000	
合 計		11,495,000	10,615,000	880,000	

【主な増減理由】

- ・ 「2(1)普及啓発活動費」において、新たに地産地消コンセプトデザインの普及啓発のために新たに啓発物品作成の為、増
- ・ 「2(2)地場農産物利用促進費」において、物価高騰による業務委託費の増

(参考) 宇都宮市地産地消推進会議運営要領 (抜粋)



(会議)

- 第5条 会議に付議する事項は次のとおりとする。
- (1) 推進会議の事業計画並びに事業報告に関すること
 - (2) 推進会議の予算並びに決算に関すること
 - (3) その他、推進会議の運営に係る事項に関すること

資料 3

議案第 3 号 地域循環型食料システム構築事業に合わせた 3 協議会の在り方検討について

地域循環型食料システムの構築事業に合わせた 3 協議会の在り方検討について、運営要領規約第 5 条第 1 項第 3 号に基づき、次のとおり議決を求めます。

1 背景と課題

(1) 背景

- ・全国的に農業者は減少傾向にあり，本市においても基幹的農業従事者数は減少しており，様々な施策を講じていくが，将来的に生産力低下が懸念され，市内の農産物の供給量が減少する可能性がある。
- ・また，気候変動により，栽培環境が変化し，収量に影響が出ており，本市の主要作物についても，収量が減少している。

[食料リスクに拍車をかける社会動向]

- ・東京や大阪など，人口や都市機能が大都市圏へ集中することにより，日本全体の食料需給バランスが崩れていく可能性がある。
- ・世界的な人口の増加により，食料の輸入量が減少する可能性があり，輸入依存度が高い我が国においては，食料安定供給の不確実性が高まっている。

「需要＞供給」の構造が大きく傾く可能性

(2) 課題

- ・将来的な食料需給の不安定化のリスクに対応し，市民に安定的に食料を供給するため，これまでの農業振興のための支援だけでなく，改めて，「農業は市民の命を守る産業」であることを認識する必要がある。
- ・これまで以上に，農業者は生産した農産物を市内に出荷し，加工・流通・販売事業者は取扱量を増やし，市民は市内農産物を消費するよう意識の転換を図るとともに，好循環の仕組みの構築を図っていく必要がある。

2 方向性

(1) 基本的な考え方

これまで、本市における農業分野の施策は「食料・農業・農村基本計画」に基づき、農業者の所得の向上など、産業として農業振興（農業者支援）を図るためのものだったが、農業者や市民、事業者が、需給バランスの変化等による食料問題が顕在化する可能性を認識し、食料を供給するライフラインとしての農業の大切さや、地域内で自分たちの食料を確保していくという意識を醸成し、宇都宮市民への食料安定供給の確保を図っていくための仕組み（地域循環型食料システム）を構築しながら、担い手の確保・育成にもつなげる。

【基本的な考え方のイメージ】

第3次宇都宮市食料・農業・農村基本計画の基本理念（あるべき状態）

農業者

職業としての農業に魅力を感じ、自信と誇りを持って、持続可能な農業生産を実践している。

市民（消費者）

市民の環境配慮に対する意識が高まり、市内産農産物を積極的に選択している。

市民（地域コミュニティ）

農の多面的機能の恩恵を受ける一方で、農業や農村環境の維持・発展に貢献している。



今後、必要となる考え方

農業者

⇒市民の命を守る食料を供給し、生活を支えていることを意識し、地域内に流通するよう、生産した農産物を出荷

市民

⇒自分たちの暮らしに宇都宮産農産物が必要だということを理解し、宇都宮産農産物を日頃から積極的に購入

加工・流通・販売事業者

⇒市内への安定供給の意義を理解し、宇都宮産農産物の取り扱いを増

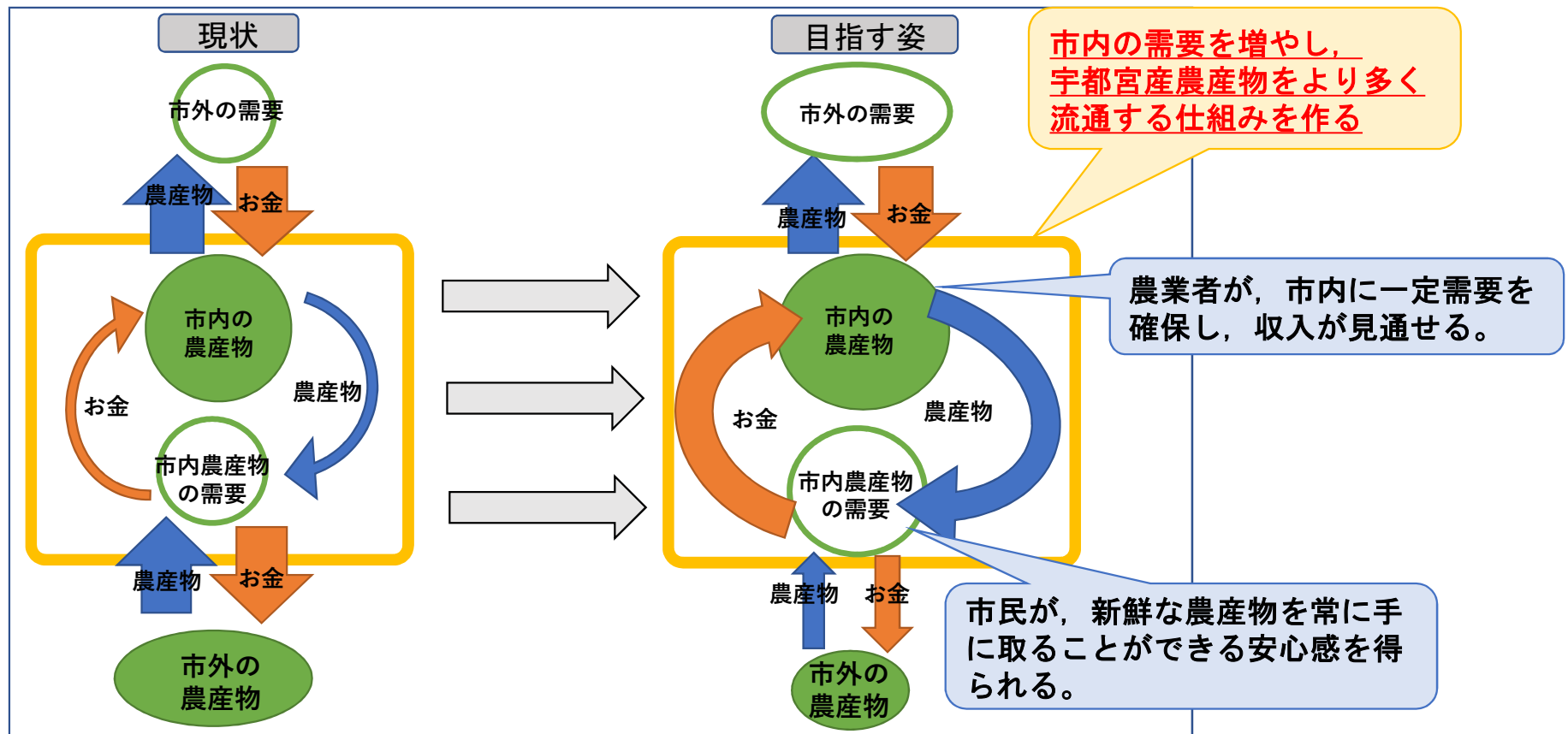
新たに取り組主体として追加

2 方向性

(2) 目指す姿

市内での宇都宮産農産物の需要を喚起することにより、消費量を増やし、生産量を確保することで、市内において、宇都宮産農産物がより多く流通する仕組みを構築

【イメージ】



3 今後の進め方

【宇都宮市】

- 基本的な考え方を踏まえた，これまでの事業の充実
- 宇都宮産農産物の地域内での生産量や流通量，消費量などを把握するための市場調査を実施
- 令和9年度に向けた，庁内横断的な戦略を策定及び既存事業の拡充や新規事業の立案
- 外部意見聴取機会としての新たな枠組みの推進体制を検討

【宇都宮市地産地消推進会議】

- 宇都宮市の考え方を受け，本協議会を含めた3つの協議会の在り方を含めた推進体制について検討
 - ア 宇都宮市地産地消推進会議
 - イ うつのみやアグリネットワーク運営委員会
 - ウ うつのみや農産物ブランド推進協議会

※ 各協議会の次期改選時(令和9年3月)を目途に協議・調整